

平成28（2016）年度 事業報告書

（平成28年4月1日～29年3月1日）

特定非営利活動法人 小児救急医療サポートネットワーク

I. 総括

平成28（2016）年度事業計画は以下の3点に集約される。

1. NPO 法人としての活動を強化
2. 保護者が自立できる相談・啓発を行う
3. 電話相談の分析から、保護者支援を検討する

これらの事業方針に対して、次のような成果があった。

1. NPO法人の事業として、各種研修事業・学会報告・論文作成を行い、当団体の広報・会員の活動参加を促進した。また、2015年度近畿ろうきん NPO アワードにて、はぐくみ賞の受賞と助成を受けた。

2. 電話相談では、保護者が自分で考え行動できる相談を目指して相談員の研修に努めた。保護者対象の講座は、代表・会員で計8回行ない、日本小児科医会家庭看護力醸成セミナー、日本小児科学会小児救急フォーラムで保護者対象に講演を行った。電話相談に関する医師・看護師対象の講演・講座は各地で6回行った。

3. 大阪府#8000の相談内容の分析を行い、小児時間外患者数との関係について大阪府医師会雑誌に、新生児に関して日本母性衛生学会雑誌に、論文を投稿し受理された。また、予防接種に関しては、日本小児科医会フォーラム・日本外来小児科学会に発表し、「小児看護」に論文を投稿、幼児期早期の発熱時の対応について大阪府医師会医学会総会に発表した。新生児の分析は、厚生労働省の班研究で光田信明班を通じて報告した。

平成28年度の課題としては以下が挙げられた。

1. 初めて1年間を通して活動したが、活動の主体は代表・理事・会員数名に限られ、各種研修では内容の充実を図れたものの広く参加者を募るには至らず、会員内外への貢献に課題を残した。

2. 電話相談では、新規相談員の増加や相談件数の増加に伴い、保護者の自立を促すより指示的な受け答えや安易な受診勧奨を行う事例も散見され、研修方法のさらなる検討が必要と考えられた。啓発講座や講演会は、数名の個人的な活動にとどまり、講師養成方法の確立に至らなかった。

3. 相談内容の分析結果は学会発表や論文の形で表明されたが、保護者や医療機関の変革には至らず、さらなる広報活動の必要性を認識した。

II. 各事業報告

(1) 小児救急等に関する相談事業

大阪府小児救急電話相談については、次年度以後に向け、管理体制整備などの準備に努めた。

(2) 普及啓発事業

①小児救急電話相談に関する普及啓発事業

ホームページにコラムを設けるなど充実に務めた。11月27日には神戸で開催された日本小児科医会家庭看護力醸成セミナーで「健康な日常に、体を見る力をつけよう」、2月26日には大阪市で行われた日本小児科学会小児救急市民公開フォーラムで「保護者を支える#8000」の講演を行った。



②小児救急に関する講座・講師紹介事業

保護者対象の講座は、堺市各区子育て支援センターなど代表と会員で計8回行った。その他、電話相談や保護者の家庭看護力向上に向けた講演・講座に代表を講師として紹介した(表1)。

表1. 平成28年度講演・講座・授業など一覧表

月日	研修・講演会名	場所	内容
5月21日	第21回北陸小児救急集中治療研究会	金沢市	小児救急電話相談の課題と展望
6月4日	京都小児科医会学術講演会	京都市	子どもの病気における家庭力を育てるために
6月25日	平成28年度日本小児保健協会 小児救急電話相談スキルアップ研修会	大宮市	基礎コース
7月21・22日	日本看護協会認定看護師研修授業	清瀬市	小児救急電話相談について
9月24・25日	平成28年度日本小児保健協会 小児救急電話相談スキルアップ研修会	東京都	実践コース
2月18日	第22回大阪小児科医会 救急・新生児研修会セミナー	大阪市	大阪府小児救急電話相談に 寄せられる新生児の相談
3月11日	鹿児島県医師会電話相談研修会	鹿児島市	相談員研修

(3) 人材養成事業

①電話相談員研修事業

大阪府#8000相談員を対象とした電話相談の研修を表に示すように年間6回開催した。今年度は、中毒110施設長、岸和田徳洲会病院ER部長を招聘し、貴重なお話を聞くことができた。小児救急電話相談では小児内科以外の症状・訴えも多く、小児科以外の講師が求められてきたが、今年度は以前より相談員から要望の多かった内容について研修ができた。

表2. 平成28年度相談員研修報告

開催日	場所	研修内容	講師	参加人数
5/10～ 5/30	上本町事務所	～自分の声を聞いてみましょう～ ＝対応している録音を聞いての自己評価＝	阿部 榮子 事務局	22名
6/18(土) 14:00～ 16:30	たかつガーデン (大阪府教育会館)	27年のまとめ 大阪府内の小児救急の現状と取り組みについて	福井 聖子 大阪府医療対策課担当	16名
9/10(土) 14:00～ 16:30	看護協会桃谷 センター	～小児救急医療相談員が知っておきたいこと～ ＝薬について＝	大阪中毒110施設長 遠藤 容子 先生	35名
10/29(土) 14:00～ 16:30	看護協会桃谷 センター	～小児救急医療相談員が知っておきたいこと～ ＝頭部外傷について＝	岸和田徳州会ER部長 鍛冶 有登 医師	30名
11/26(土) 14:00～ 16:30	看護協会桃谷 センター	テキストの改訂について-1 (グループワーク)	福井 聖子 阿部 榮子	11名
2/25(土) 14:00～ 16:30	上本町事務所	テキストの改訂について-2 平成29年度に向けて	福井 聖子	12名

②電話対応研修事業

2つの研修会開催と学会でワークショップを行なった。参加者からは、「聴く」ことに対して、保護者の立場に立つ難しさを感じた・話し合っただけで考えが深まったなどの声が寄せられた。

この事業については、2015年度近畿ろうきんNPOアワードはぐくみコースに応募し、はぐくみ賞の受賞と助成を受けた。

研修名	開催日時	場所	スタッフ 人数	参加人数
電話対応スキルアップ研修会 ～#8000から学ぶクリニック の電話対応～	H.28.7.16. 13:30～16:30	サンスクエア堺 (堺市堺区)	4名	18名 事務職13・ 看護師3・他2
第26回日本外来小児科学会年次集会 #8000から学ぶクリニックの 電話対応	H.28.8.28. 9:00～11:30	JRホテルクレメント高松 (香川県高松市)	5名	39名: 事務職26 看護師13
スキルアップ研修会 2nd 実際の録音から学ぶぼう 口調・聴き方・説明について	H.28.10.1. 13:30～16:30	看護協会桃谷センター (大阪市天王寺区)	4名	34名 事務職18 看護師16

研修風景



左：講義開始

中央：グループで各自の意見を出し合う

下：各グループからの発表のまとめ

右下：学会会場にて



(4) 調査・研究事業

①電話相談内容の分析事業

平成 28 年度小児救急電話相談実績報告書において、年度のまとめを作成した。また、大阪小児科医会における小児時間外患者数調査と電話相談を比較検討し大阪府医師会雑誌に、新生児の相談に関して日本母性衛生学会雑誌に、論文を投稿し受理された。また、予防接種に関しては、日本小児科医会フォーラムおよび会員が日本外来小児科学会に発表し、「小児看護」に論文を投稿した。さらに、幼児期早期の発熱時の対応について大阪府医師会医学会総会に発表した。新生児の相談においては産科退院後の家庭でのケアに問題があることを、厚生労働省の班研究で光田信明班にて報告した。

②電話相談マニュアルの開発事業

11 月 26 日・2 月 25 日の研修に際して相談員からの意見提出と資料収集作業を行ない、次年度完成に向けた準備を行った。

(5) その他

小児救急市民公開フォーラムの機会に、#7119 関係者や小児救急医療機関医師と面識を得た。

Ⅲ. 社員総会の開催状況

第2回通常総会 平成28年6月18日(土曜日) 16:15~16:50

場所：たかつガーデン 社員総数：41名 出席者数：39名(うち委任状出席者23名)

- 内容：1. 平成27年度事業報告・会計報告について
2. 平成28年度事業計画・事業予算について
3. 役員報酬について
4. 役員改選について
5. その他

以上について、承認を得た。

V 理事会その他の役員会の開催状況

理事会

平成28年8月20日(土曜日) 16:00~17:30

場所：大阪府小児救急電話相談上本町事務所 出席：理事5名

1. 平成27年度事業報告・会計報告について
2. 平成28年度事業計画・事業予算について
3. その他

定例会

毎月1回 理事長と事務局職員で進捗状況を確認。